

# 筒井淳也『社会学—「非サイエンス」的な知の居場所—』(岩波書店、2021年)オンライン合評会

日時: **2021年12月27日(月) 13時~16時**  
(最大でも16時30分過ぎには終了)

報告者: **筒井淳也**  
(立命館大学産業社会学部・教授)

討論者: **砂原庸介**  
(神戸大学大学院法学研究科・教授)

**金澤悠介**  
(立命館大学産業社会学部・准教授)



司会および問い合わせ先: 加藤雅俊(立命館大学産業社会学部・准教授)  
[mkato@fc.ritsumeai.ac.jp](mailto:mkato@fc.ritsumeai.ac.jp)

開催形態: Zoomミーティング(事前登録制)

事前登録制(参加をご希望の方は、12月25日(土)の17時までに、以下のリンク先もしくはQRコードからお申し込みください。合評会前日17時頃までに、Zoomのミーティングルームのリンク先を送付します。)

<https://forms.office.com/r/sqY0r1ECLd>



社会学は、政治学や経済学などの隣接する社会諸科学と比べて、どのような学問的な特徴を有しているのか？人文社会科学への厳しい意見があるなかで、社会学の存在意義はどのような点にあるのか？これらの問いは、社会学を研究する／学ぶものだけでなく、社会(諸)科学を研究する／学ぶものにとっても重要なものである。

筒井氏は、新著『社会学』において、「非演繹的な理論研究」と「非因果論的な実証研究」という傾向を有する社会学は、対象から距離を取る科学的アプローチ(「距離化戦略」とは異なり、専門知が対象に依存することを前提に、対象から問いを受け取る「反照戦略」を採用する点に特徴があることを指摘する。そして、「距離化戦略」が有効となるには対象の同質性が必要となる一方で、急激な変化を経験する現代社会においてこそ、「反照戦略」に依拠する社会学が重要となることを明らかにする。

合評会では、筒井氏から新著の概要をご紹介いただいた上で、社会学に隣接する政治学・行政学を専門とする砂原氏と、社会学のなかでも数理社会学・計量社会学を専門とする金澤氏からコメントをいただき、多角的な角度からディスカッションを行う。

本企画が社会学および社会科学のあり方や可能性を考える機会となれば幸いである。

## 【主催】

・科学研究費・基盤研究(B)「「家族主義レジーム」の変容に関する国際比較研究—家族政策の多様化とその因果的背景」(研究代表者: 加藤雅俊)

## 【共催】

・科学研究費・基盤研究(B)「多様化する社会における福祉体制の動態—日韓比較研究を通じた理論開発」(研究代表者: 松田亮三)

・立命館大学人文科学研究所 重点研究プログラム「グローバル化とアジアの地域」